ウェブ版はこちら。データとレーティングはウェブ版の最新版を正とする
alphascope.cc/ja/reports/us-weekly-2026-w41

米国株週報 · 2026年第41週（10/5〜10/9）

S&P500は1.2%上昇、S&P500均等加重は1.6%上昇、半導体ETFは4.3%下落

半導体からディフェンシブ業種とソフトウエアへ資金が移動し、市場の裾野は広がった

今週（10月5日から9日）のS&P500は1.15%上昇し、7811.54で取引を終えた。S&P500均等加重は1.58%上昇した一方、ナスダック100の上昇は0.24%にとどまり、ラッセル2000は0.92%下落した。業種別では公益、生活必需品、エネルギーが上昇を主導し、半導体ETF（SMH）は4.32%下落、ソフトウエアETF（IGV）は3.91%上昇した。米30年債利回りは10月7日に5.67%と24年ぶりの高水準をつけた後に低下し、9月FOMC議事要旨では多くの参加者が年内の追加利上げを想定していることが示された。

S&P500	ナスダック100	ラッセル2000	米10年債	VIX 指数
+1.2%	+0.2%	-0.9%	5.22%	14.84
終値 7,811.54	終値 30,883.15	終値 2,806.98	-6bp	週間 -0.47

WTI 原油
+0.8%
終値 91.85

01

今週の要点

半導体株が4.3%下落する一方、ソフトウエアとディフェンシブ業種が上昇し、指数の上昇は幅広い銘柄に支えられた

半導体ETF（SMH）は週間で**4.32%**下落し、10月8日だけで2.8%下げた。一方、ソフトウエアETF（IGV）は**3.91%**上昇した。エヌビディアは2.00%下落し、アマゾンとマイクロソフトはそれぞれ4.34%、3.39%上昇した。直接の材料は10月8日の英フィナンシャル・タイムズの報道で、OpenAIが投資家に示した9月末時点の年換算売上高は約500億ドル

と、従来伝えられていた約700億ドルを200億ドル程度下回った。AIインフラ投資の回収可能性に対する疑問が強まり、フィラデルフィア半導体株指数は一時約4%下落した（Yahoo Finance、10月8日）。長期金利の高止まりと原油高に伴うインフレ懸念も、高PERのグロース株の重荷となった（24/7 Wall St.、10月8日）。
ソフトウエア株は7月以降の反発が続き、S&P500ソフトウエア・サービス指数は10月6日に2025年11月以来の高値をつけた（American Bazaar、10月6日）。業種別では公益（+3.97%）、生活必需品（+3.60%）、ヘルスケア（+2.79%）が上昇を主導し、情報技術（-0.52%）と資本財（-0.41%）は下落した。スタイル別では低ボラティリティ（+2.36%）がモメンタム（-0.89%）を上回った。均等加重が時価総額加重を0.43ポイント上回り、上昇は一部の大型テック株に依存しておらず、市場の裾野は広がったといえる。ただしラッセル2000は0.92%下落し、高金利下で小型株の出遅れが続いている。

米長期債利回りは24年ぶり高水準から低下、議事要旨は年内追加利上げの見通しを維持

米30年債利回りは10月7日に**5.67%**と24年ぶりの高水準をつけ、10年債利回りも10月5日に5.31%まで上昇した（FRED）。その後は低下し、FREDの最新値である10月8日時点で2年債4.75%、10年債5.22%、30年債5.60%と、前週末比でそれぞれ8bp、6bp、3bp低下した。10年実質金利は5bp低下の2.87%である。金曜日の10年債利回りは約5.24%で取引を終え（Yahoo Finance、10月9日）、金曜終値ベースの週間低下幅は約4bpとなる。

10月7日公表の9月FOMC議事要旨では、FF金利の誘導目標を25bp引き上げ3.75%から4.00%とした決定は全会一致であり、多くの参加者が年末までの追加利上げを想定しているものの、時期は示されなかった（Yahoo Finance、10月7日）。10月27日から28日の会合での利上げ確率は約20%と織り込まれ、12月の可能性がより高いとみられている（Admiral Markets）。物価関連では、9月ISM非製造業の価格指数が74.0と8月の72.6から上昇し、10月ミシガン大学消費者信頼感指数（速報値）は46.3と市場予想を下回った。1年先の期待インフレ率は4.7%、長期の期待インフレ率は3.5%に上昇した（FXStreet、10月9日）。短期債の低下幅が長期債を上回ったことは、10月利上げの織り込みが一段と進まなかったことを反映しているとみられる（推測）。長期金利は数十年来の高水準近辺にあり、タームプレミアムの明確な縮小はみられない。

ブレント原油は2.4%上昇の104.7ドル、地政学と石油製品の供給を巡る報道で値動きが大きかった

ブレント原油先物は週間で**2.42%**上昇し1バレル104.72ドル、WTIは0.81%上昇の91.85ドル、天然ガスは6.10%上昇した。エネルギー株は3.60%高である。クラックスプレッドの拡大を受けて精製会社が買われ、マラソン・ペトロリアムは7.4%、バレロは6.5%上昇した（Alain Guillot、週間まとめ）。10月8日は原油が日中に大きく上昇した後、トランプ大統領が中間選挙前にイランを攻撃することはないと発言したことで上げ幅を縮小した（Bloomberg、10月8日）。10月9日には同大統領がプーチン大統領との間でロシアが軽油を国際市場に放出する取り決めを発表し、米超低硫黄軽油先物は同日4%下落した（DTN、10月9日、Al Jazeera、10月9日）。

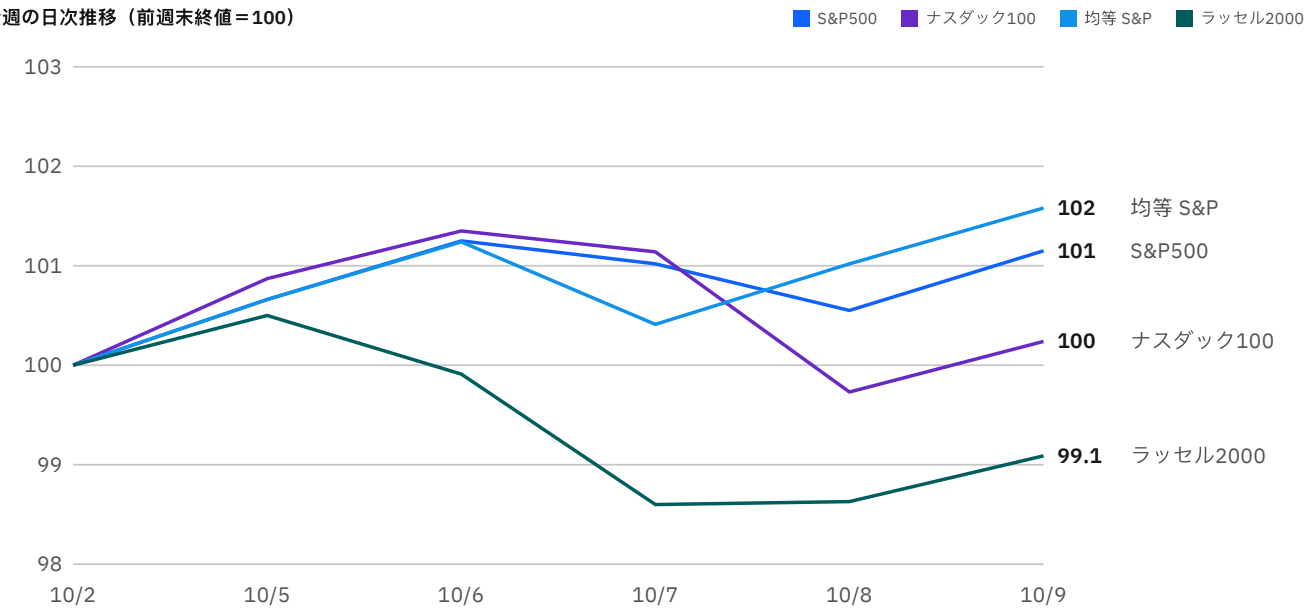
原油価格が1バレル100ドルを上回って推移していることが、9月のガソリン価格の過去最高更新と、来週公表の9月CPIで総合インフレ率の上昇が予想される主因である。報道ベースのブレント金曜清算値は約104ドルであり、本稿のデータ（104.72ドル）との差はYahoo Finance連続限月の終値時点と清算値の違いによる。

> 今週の株式市場の調整は主に業種間で生じ、AI関連の売上見通しの下方修正を受けて半導体のバリュエーションが低下し、ディフェンシブ業種とソフトウエアに資金が向かった。金利市場は原油高と期待インフレ率の上昇を背景に、年内の追加利上げを引き続き織り込んでいる。

02

市場動向

今週の日次推移（前週末終値＝100）



11セクターの週間騰落（SPDR セクター ETF）

公益事業 +4.0% 年初来 -1.0%	生活必需品 +3.6% 年初来 +9.5%	エネルギー +3.6% 年初来 +48.4%	ヘルスケア +2.8% 年初来 +11.7%	一般消費財 +2.6% 年初来 -4.9%	金融 +2.3% 年初来 +1.1%
不動産 +2.0% 年初来 +5.6%	素材 +1.2% 年初来 +10.4%	コミュニケーション +0.1% 年初来 -5.4%	資本財 -0.4% 年初来 +10.0%	情報技術 -0.5% 年初来 +38.6%	

スタイル・テーマ別騰落

ソフトウェア +3.9% 年初来 +6.6%	低ボラティリティ +2.4% 年初来 +7.9%	バリュー（ラッセル1000バリュー） +1.7% 年初来 +21.8%	クオリティ +1.2% 年初来 +15.0%	グロース（ラッセル1000グロース） +0.7% 年初来 +8.4%	モメンタム -0.9% 年初来 +28.4%
半導体 -4.3% 年初来 +67.5%					

大型テック株	週間	1カ月	年初来	終値
アマゾン	+4.3%	+4.0%	+13.7%	$262.43
マイクロソフト	+3.4%	+8.8%	+11.3%	$535.07
テスラ	+3.3%	+4.0%	-14.9%	$382.70
アルファベット	+2.4%	+6.4%	+12.6%	$351.66
ブロードコム	+1.8%	-0.6%	+5.0%	$361.54
アップル	+0.9%	+6.8%	+24.2%	$336.64
メタ	-1.3%	+10.0%	+9.2%	$718.67
エヌビディア	-2.0%	+2.6%	+23.2%	$229.28

業種：11業種中9業種が上昇した。公益（+3.97%）、生活必需品（+3.60%）、エネルギー（+3.60%）、ヘルスケア（+2.79%）が上昇を主導し、情報技術（-0.52%）と資本財（-0.41%）は下落、コミュニケーションは小動き（+0.05%）であった。コミュニケーションは金曜日に約1.5%下落した。SpaceXがスターリンク・モバイル拡大のため全米の低周波数帯の周波数免許を取得すると発表し、AT&T、ベライゾン、Tモバイルが大幅安となる一方、通信塔REITは上昇した（Yahoo Finance、10月9日）。資本財はキャタピラーが

10月7日に格下げを受けて5.7%下落したことが重荷となった。ヘルスケアではヒューマナ**ボタゾルケアファーマ**アボットが+3.9%の株価改善を受けて金曜日に約10%上昇した。ユー（+1.67%）がグロース（+0.66%）、モメンタム（-0.89%）、半導体（-4.32%）を上回り、高ベータからディフェンシブへのローテーションがみられた。

大型テック株：アマゾン（+4.34%）、マイクロソフト（+3.39%）、テスラ（+3.27%）が上昇し、エヌビディア（-2.00%）とメタ（-1.29%）は下落した。AIハードウエアからソフトウエアへの資金移動と整合的な値動きである。

03

金利・クレジット市場

指標	週末値	週間変化	年初来
米2年債	4.75%	-8bp	+128bp
米10年債	5.22%	-6bp	+104bp
米30年債	5.60%	-3bp	+76bp
10年-2年スプレッド	0.44%	-1bp	-27bp
10年実質金利（TIPS）	2.87%	-5bp	+94bp
10年ブレークイーブン・インフレ率	2.33%	-3bp	+8bp
ハイイールド債スプレッド	3.15%	+5bp	+34bp
投資適格債スプレッド	0.82%	-3bp	+3bp
FF 実効金利	3.88%	+0bp	+24bp

出典：FRED（セントルイス連銀）、今週データのある最終取引日。スプレッドはオプション調整後（ICE BofA）。

VIX 指数
14.84
週間 -0.47

MOVE 米国債ボラティリティ
98.47
週間 -8.82

ドル指数
102.21
週間 +0.28

10月8日時点（FRED）で米2年債利回りは4.75%（-8bp）、10年債は5.22%（-6bp）、30年債は5.60%（-3bp）であった。10年と2年の利回り格差は10月9日に0.44%（-1bp）で、イールドカーブの形状に大きな変化はない。10年実質金利は5bp低下の2.87%、10年ブレークイーブン・インフレ率は3bp低下の2.33%であり、名目金利の低下は主に実質金利による。年初来では2年債が128bp、10年債が104bp上昇しており、9月の利上げ再開と整合的なベアフラット化が進んでいる。

クレジット市場はまちまちで、ハイイールド債スプレッドは5bp拡大の3.15%、投資適格債スプレッドは3bp縮小の0.82%となった。VIXは0.47低下の14.84、MOVE指数は8.82低下の98.47であり、債券のボラティリティの低下幅が株式を上回った。ドル指数は0.28%上昇の102.21である。10月12日（月）はコロンブス・デーで米債券市場は休場となり、株式市場は通常どおり取引される。

04

クロスアセット動向

資産	直近	週間	年初来
天然ガス	3.22	+6.1%	-12.6%
ブレント原油	104.72	+2.4%	+72.1%
銅	6.64	+2.3%	+18.0%
金	4,216.30	+1.3%	-2.9%
銀	60.67	+1.2%	-13.5%
日経平均	69,030.92	+1.1%	+37.1%
ハンセン指数	24,211.35	+1.0%	-5.5%
WTI 原油	91.85	+0.8%	+60.0%
ドル/円	158.25	+0.2%	+1.2%
ドル/人民元	6.70	-0.0%	-4.2%
ユーロ/ドル	1.12	-0.4%	-4.6%
上海総合	3,813.79	-0.7%	-3.9%
ユーロ・ストックス50	6,173.37	-1.0%	+6.5%
ビットコイン	82,546.32	-4.5%	-5.7%
イーサリアム	2,485.54	-8.8%	-16.2%

為替は表示通貨ペアの騰落率で、ドル/円の上昇はドル高を示す。原油・天然ガスは期近先物。

商品は総じて上昇し、天然ガス+6.10%、ブレント原油+2.42%、銅+2.32%、金+1.30%（1オンス4216ドル）、銀+1.16%となった。暗号資産は軟調で、ビットコインは4.55%安の約8万2500ドル、イーサリアムは8.84%安となった。半導体株の下落と同時に進んでおり、高ベータ資産全般でリスク選好が後退したとみられる（推測）。

海外株式は日経平均が1.06%高、ハンセン指数が1.00%高となる一方、ユーロ・ストックス50は1.04%安、上海総合指数は0.74%安であった。ユーロ・ドルは0.39%下落の1.1206、ドル・円は0.20%上昇の158.25、ドル・人民元はほぼ横ばいである。

05

カバレッジ銘柄

ティッカー	当社レーティング	週間	対 S&P	年初来
AMZN	買い	+4.3%	+3.2%	+13.7%
NVDA	買い	-2.0%	-3.1%	+23.2%
8031.T	中立	-2.6%	-3.7%	+5.3%
MSFT	中立	+3.4%	+2.2%	+11.3%
MCD	買い	+1.4%	+0.3%	-21.5%
KO	買い	+2.8%	+1.7%	+28.4%
TSLA	買い	+3.3%	+2.1%	-14.9%
AAPL	買い	+0.9%	-0.3%	+24.2%

カバレッジ銘柄では、アマゾン（買い、+4.34%）、マイクロソフト（中立、+3.39%）、テスラ（買い、+3.27%）、コカ・コーラ（買い、+2.80%）がS&P500を上回った。マクドナルド（買い、+1.44%）は指数並み、アップル（買い、+0.88%）はやや下回った。エヌビディア（買い、-2.00%）は半導体株安の影響を受け、三井物産（中立、-2.59%）も

指数を下回った。評価の期間は12カ月であり、1週間の値動きは評価見直しの根拠とはならない。

06

来週の注目材料

日付	イベント	注目点
10/12	コロンブス・デーで米債券市場は休場	株式市場は通常取引。現物国債の価格指標がな
10/13	JPモルガン、ゴールドマン・サックス、ウェルズ・ファーゴ、シティグループの7〜9月期決算	決算シーズン入り。高金利下の純金利収入、投
10/14	9月CPI、バンク・オブ・アメリカとモルガン・スタンレーの決算	8月の総合CPIは前年比3.4%、コアは2.4%。市
10/15	9月小売売上高、PPI、TSMCの7〜9月期決算	8月の小売売上高は前月比1.2%、最終需要PPIは
10/16	9月鉱工業生産	今週の資本財株は0.41%下落。高金利と原油高
10/28	FOMC（10月27〜28日）	10月利上げの確率は約20%と織り込まれており

決算	日付	時間帯	EPS 予想
Wells Fargo & Company (WFC)	10/13	寄り付き前	1.85
Bank of America Corporation (BAC)	10/14	寄り付き前	1.11
Taiwan Semiconductor Manufacturing Company Limited (TSM)	10/15	寄り付き前	4.48

時価総額300億ドル超の企業。yfinance の決算カレンダーより。日程は会社発表が優先。

07

データの定義と出典

週間騰落率 = 今週最終取引日の終値 ÷ 前週最終取引日の終値 − 1（2026-10-05〜2026-10-09）。指数と ETF は調整後終値。

株価・為替・商品・暗号資産・カレンダーは Yahoo!ファイナンス（遅延あり）。米国債利回り、実質金利、期待インフレ率、信用スプレッド、FF 金利は FRED。

セクターは SPDR セクター ETF、スタイルは iShares ラッセル1000 グロース/バリュー、MTUM、QUAL、USMV、テーマは SMH（半導体）とIGV（ソフトウェア）。

データ：Yahoo Finance（指数、業種・スタイルETF、個別株、商品先物の連続限月、為替、暗号資産。いずれも10月9日終値）、FRED（米2・10・30年債利回り、10年実質金利、クレジットスプレッド、FF実効金利は10月8日、10年と2年の利回り格差とブレークイーブン・インフレ率は10月9日が最新）。金曜日の米国債終値水準は報道による。

業種とスタイルはSPDR業種ETF、iShares・VanEckのスタイルETFで代用しており、指数とはわずかな乖離がある。

Yahoo Finance：Markets News, Oct. 9, 2026（10月9日）

Yahoo Finance：10月8日の市況（OpenAI売上報道、半導体安）

Yahoo Finance：10月7日の市況（FOMC議事要旨）

The Motley Fool：10月7日の市況（30年債利回り、キャタピラー）

24/7 Wall St.：半導体株の下落（10月8日）

American Bazaar：ソフトウエア株が年初来高値（10月6日）

Bloomberg：原油反落（10月8日）

DTN：米口軽油取り決め後の軽油先物下落（10月9日）

Al Jazeera：米口の軽油取り決め（10月9日）

FXStreet：ミシガン大学消費者信頼感指数速報値（10月9日）

Admiral Markets：9月CPIプレビュー

Alain Guillot：10月5日から9日の週間まとめ

Quiver Quant：SpaceXの周波数取得と通信株安

本週報は公開市場データに基づくリサーチ資料であり、一般の読者を対象としている。個人の財務状況を考慮したものではなく、投資助言を構成するものではない。データには遅延があり、原資料の数値が優先される。

データ時点 2026-10-09 · 雅虎财经（行情、汇率、商品、日历）；FRED（美债收益率、信用利差、政策利率）

AlphaScope · alphascope.cc/ja/reports/us-weekly-2026-w41 · 2026-10-11 作成

財務データは SEC EDGAR の原資料に基づく。株価データには遅延があり、出典は各レポートに記載している。

レーティングはすべての読者を対象とするリサーチ上の見解であり、特定の個人に対する売買の推奨ではない。投資にはリスクが伴う。投資判断は読者自身の責任において行われたい。